

“菌ちゃん農法”の勧め（1／5）

～ “菌ちゃん農法” は “世界を救う農法” ～

その理由 1

山で日々行われている自然の摂理である**循環**を畑で人為的に再現しようという農法だから

つまり作物の成長の全てを土中の微生物に委ねるといふ自然の摂理に則っている。

その理由 2

廃棄される**落ち葉、枝切れ、竹、倒木、もみ殻、草**などを使った農法だから

これらの多くは、山の近くへ行けば無尽蔵にあり、**持続的に調達**できる。



その理由 3

地球の温暖化防止に貢献する農法だから

微生物が空気中にある温室効果ガスである N_2O を分解して、植物の栄養となる窒素を生成する。

腐敗しにくい発酵型の豊かな土にするために、無機質となった**炭**を耕地に混ぜることを勧めている。この炭は、微生物たちの格好の住処になり半永久的に炭素として残る。**農業からの脱炭素化の取組**。

“菌ちゃん農法”とは

長崎県佐世保市在住で元長崎県農業改良普及員の菌ちゃん先生こと吉田俊道さんが提唱される農法で、常識では考えられない**農薬も肥料もいらない農法**



菌ちゃん先生こと吉田俊道さん

“菌ちゃん農法”の勧め（2/5）

～ “菌ちゃん農法”の土づくりのポイント～

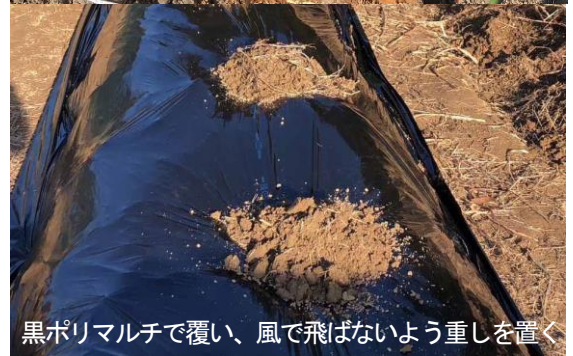
ポイント1

野菜を植える前に、**糸状菌**をできるだけ土の中で**繁殖**させておくこと

この糸状菌は、野菜にくっついて**野菜の根**になってくれるだけでなく、空気中の窒素を固定する微生物などの土壌微生物を元気にする。そのために**時間が必要**となる

菌ちゃん（微生物の愛称）のエサとなる有機物も仕込んで、菌ちゃんに増えてもらってから野菜を植える

具体的には、土の上に落ち葉、枝切れ、竹、倒木、もみ殻、草などを敷いて、適度に湿らせ、**黒ポリマルチ**で覆う。



ポイント2

糸状菌が付いた菌ちゃんのエサの確保

自治会での清掃活動の際に、集まった落葉や枝や竹を雨のあたる場所に積んでおけば、糸状菌がつく。こうやって大切な有機物を焼却場に出さずに循環させることで、地球への負担を少なくすることができる。

山に行ったら道ばたの側溝にたまった落葉や枯れ枝を持ち帰る。多くの人々が同様のことをすることにより、里山の整備に繋がる可能性が出てくる。これらの廃棄物にはすでに糸状菌がついていることも多く、“菌ちゃん農法”ではすぐに使える。

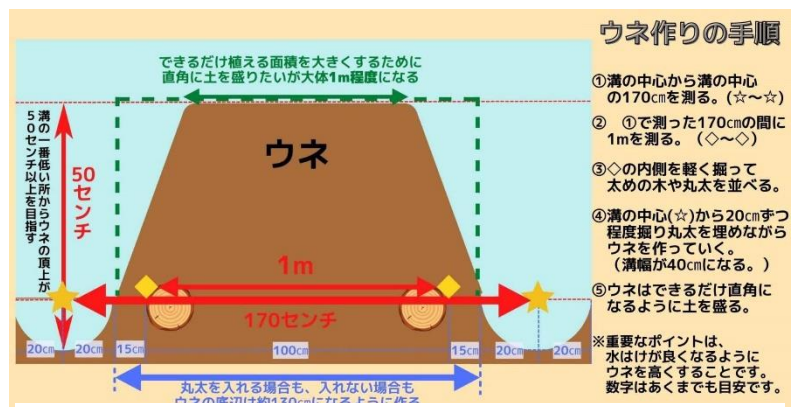
“菌ちゃん農法”の勧め（3/5）

～ “菌ちゃん農法” の特徴～

特徴 1

高畝にする

“菌ちゃん農法”の肝である糸状菌が元気に活動できるようにするため。山の中は、斜面で水はけがよく、このため好気性の糸状菌は死滅することもなく本来の能力を発揮する。この山の中の状態を平らな畑で実現しようとするための工夫。そのため畝づくりには、細心の注意が必要。具体的には、右図のように、**50cm以上**と通常の畝より高い畝とし排水にも気を配る。



高畝の断面

特徴 2

黒ポリマルチで畝を覆う

“菌ちゃん農法”の肝である糸状菌が元気に活動できるようにするため。山の中は、木の葉や落ち葉などがあるため、雨水が直接土に当たらないことから土が固くなりにくい。このため好気性の糸状菌は死滅することもなく本来の能力を発揮する。この山の中の状態を平らな畑で実現しようとするための工夫。雨の侵入を防ぐことも必要だが、空気の入入れも重要なので、随所に穴をあけておくことも忘れないように。糸状菌たちの働きによって**粒状構造**になれば、マルチを取り除くことができる。



“菌ちゃん農法”の勧め（4/5）

～ “菌ちゃん農法” を勧める理由～

その理由 1

虫がつきにくい元気な野菜が育つから

“菌ちゃん農法”では、「虫がくるのは野菜が弱っているから」と説明する。元気な土壌微生物を増やし、野菜と共生することで、植物が本来持っている虫を近づけないという能力を発揮できる。

このことで農薬や肥料なしで育てた野菜にもかかわらず、ほとんど虫食いがなく、栄養価の高い野菜が作れる。

その理由 2

次々に植え付けができるから

「菌ちゃんふぁーむ」の有機農業の畑では緑肥の栽培のため、年1作。しかし“菌ちゃん農法”の畑では、根を残したまま次の作物を植え付ける。もちろん無限にではなく、適宜、菌ちゃんのエサを補給する必要がある。

葉牡丹が終わりそうになったので、直ぐ隣にマリーゴールドを植えた(7/10)ところ、7/29には下の写真に



その理由 3

農業から脱炭素化にも貢献できる農法だから

糸状菌によって元気になる微生物の中には、空気中の窒素を固定する微生物もいる。この微生物は、温暖化の原因の1つである空気中の N_2O を吸収するというので、近年、脱炭素化へ有望な微生物だということで注目されている。

さらに“菌ちゃん農法”では、腐敗しにくい発酵型の土にするために、炭を土に混ぜることを勧めている。

この炭を土に混ぜることは、空気中の CO_2 の土中への固定となり、脱炭素化にも貢献できる。炭は微生物のエサにはならないが、微生物の快適な住処となり、微生物が増えて豊かな土壌となる。



無煙炭化器による炭づくり

“菌ちゃん農法”の勧め（5/5）

～重富幸江さん(平川)のチャレンジ～

有機農業に取り組まれている重富さんは、常識では考えられない農薬も肥料もいらない農法である“菌ちゃん農法”に果敢に挑戦されています。1年目の菌ちゃん畝での様子を写真で報告してもらいました。長崎県佐世保市の菌ちゃんふぁーむの農場にも見学に行かれています。まだ1年目ですが、今後の菌ちゃん畝の様子にも注目です！（東記）



ピーマンは、6月11日に花が咲いた



7月7日、右の写真のような大きいピーマンを収穫



ピンクの丸で囲んだのが葉牡丹の苗



野菜だけでなく葉牡丹もすごい



葉牡丹が終わりそうになったので、直ぐ隣にマリーゴールドを植えた(7/10)

7/29のマリーゴールド



くりまさるは、1苗で2個しかつかなかつたが、1つが2キロ超えた



レストランに納入したが、とても美味しかったからまた欲しいと喜ばれた



春に植えた同じ場所にまた、冬至用のかぼちゃを植えた連作障害も今のところなく、蔓がグングン伸びている

重富さんからのメッセージ

- ・有機畝だと、先に植えた野菜を取り除いてからでないといけないが、収穫の終わった野菜の足元に、他の野菜も次々に混植出来るのが一番いい。
- ・数が植えられるので、出荷する人は有機畝と菌ちゃん畝、両輪でやっていくといい。